

五葉城ってどんな城？

五葉城ごようじょうは、富岡西部の五葉湖の南にそびえる標高340mの山頂にあり、五葉湖畔から歩いて1時間近くかかる高所にあります。五葉城は新城市と豊橋市との境界に位置しており、八名郡南部の西郷わちがや（石巻中山町）と月ヶ谷すせ（嵩山町）の一円を領した西郷氏の山城と考えられています。

戦国期、西郷正勝は駿河の今川義元するがに仕え、天文16年（1547）、今川軍の東三河から西三河への軍事行動とともに、西郷谷が駐屯基地となっていました。しかし、永禄3年（1560）の桶狭間での義元戦死にともない徳川家康に属したため、永禄4年（1561）には今川氏真家臣うじざねの朝比奈泰長やすながに攻められ、正勝・元正父子は討ち死にしました。この時、西郷氏と縁戚関係にある野田城さだみつの菅沼定盈が逃れて、西郷の「高城たかつき」（五葉城とりで）に砦を構えたことが知られています。

五葉城は高城砦址たかつきが隣接しているため、別称として高城たかつきとしたり（参河名所図絵）、高城を別の城としたりした（浅野文庫蔵「諸国古城之図」）記述もありますが、機能的に一体化した城といえるようです。本来の大手道は、「諸国古城之図」に南方の西郷谷方面から登城する「七曲坂大手口」とあり、西尾根の曲輪（堀切部）に入るように描かれています。

五葉城のある地点の近くには宇利峠と中山峠とおとうみのくにいなさがあり、遠江国引佐郡とつながっています。五葉城の利点は、宇利峠と中山峠越えをおさえ、北方の宇利地域を見下ろし監視できる位置にあることです。そのため、今川期の西郷・菅沼氏よりも永禄8年（1565）以降、家康の遠江侵攻から武田氏の三河侵攻にともない、家康の手により築き上げられ陣城として機能、運用されたと考えられています。

<参考>

- ・新城—文化財案内
- ・愛知の山城ベスト50を歩く
- ・「城」149号：東海古城研究会



五葉城址